

# 農報

水稲



## 水稲情報



水稲  
新木 真一  
指導販売部  
0969-22-1105

### ①水田除草剤の適正使用

農薬は、あらかじめ品質・効果・残留性などが、基準によりチェックされ、問題がないと判断された薬剤が農林水産大臣の登録を受け、販売・流通しています。

水田除草剤として製品に貼付されているラベルには効果や薬害、残留性 etc から設定された使用基準や使用上の注

意事項が記載されています。その内容を遵守して使用してください。薬剤の特長や散布方法を把握し効率よく利用し、特に散布時や散布後数日間（7日程度）の水管理には十分注意を払う必要があります。湛水状態を保つことは、安定した除草効果が得られるばかりでなく水田水系外への除草剤成分の流出を防止するためにも重要となります。

散布した除草剤の有効成分は水田土壌の表層に吸着されて除草効果を発揮します。安定した効果を得るためには、この処理層を壊さない水管理が大切です。落

水や漏出を防ぎ、掛け流しを行わないようにしましょう。また、水が少なくなり田面が露出するとその部分の除草効果が低下しますので減少分をその都度補充してください。

### ②有効茎数の確保と中干し

除草期間が終了したら有効茎数を確保するために暖かい日中は浅水管理で分けつの促進に努めてください。1株の茎数が18本程度確保できたら中干しを行ってください。（平年では5月20日頃より）水管理を容易にするために、中干し前の土が軟らかい時に「溝切り」を行きましょう。

### ③中間施肥 病害虫防除

中干し前に、茎を丈夫にするために珪酸加里を10㎡に20～30kg施用してください。

補植苗は病害虫の発生要因となりますので、早めに取り除きましょう。また、畦畔の除草による耕種的防除に努めましょう。

果樹



## 4月の柑橘園管理



果樹  
後藤 昇  
上島営農指導センター  
080-1729-1632

1月2月と寒い日が続きましたが3月に入り、降雨とともに気温も上昇してきた様に感じます。

露地栽培のみかんでは3月に十分な降雨があったため、発芽も順調に進んでいくことが予想されます。4月では発芽に伴い防除・枝梢管理（着花確保）が今後の管理のメインになります。樹を良く観察し、適期管理に努めましょう。

### 1. 河内晩柑の収穫とその後の管理

通気の良い冷暗所で予措を行い、ポリ個装を実施しましょう。また、今後は気温の上昇に伴い庫内の温度も上昇しますので、朝夕の換気に努め貯蔵管理を行いましょう。

品種名	区分	収穫時期	予措期間
河内晩柑	後期採取	4/1～4/20	7日程度（2%）

### 2. 病害虫防除

温州みかんについてはそうか病が多い園では4月の下旬に再度、デランフロアブルを1000倍で散布を行いましょ

項目	散布時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	備考
温州みかん	上旬	そうか病	デランフロアブル	1000倍	そうか病が多い園では4月下旬に再度

### 3. 施肥

#### ○通常タイプ

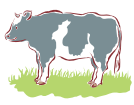
対象品種	施肥時期	肥料名	10a当たりの袋数
全品種	4月上旬	硫酸マグネシウム	2袋
中熟・普通温州	4月上旬	熊本果樹肥料 10-7-4 又は ひのくに果樹 9-3-3 又は 熊本デコボン 8-3-3	5袋
デコボン		3袋	

### 4. 葉面散布

樹勢が落ちている場合貯蔵養分の不足が考えられますので、発芽～新梢伸長期はチッ素系の葉面散布を行って下さい。また、緑化が遅れそうな場合は、マグネシウムの葉面散布を行いましょ

目的	資材名	希釈倍数	備考
樹勢回復・樹勢維持	アミノジューシー N14	500倍	いずれかをご使用下さい
	神協スピリッツ	1000倍	
緑化促進	葉面マグ	200倍	





# 1年1産を目指した和牛の「ストレスゼロ」の飼養管理



**畜産**  
太田 拓真  
上島営農センター  
080-1707-9237



## 飼養管理での留意する取り組み

「ストレスゼロ」の飼養管理を行うにあたり、留意した項目を表-1に記した。

### 1) 放牧主体の飼養管理

母牛は分娩前後のものを除き、省力化と飼料費削減の目的に加え、正常な卵巣周期に不可欠なビタミン・ミネラルを自然の状態で牧草から摂取出来るよう、また自由運動による過肥の回避と足腰の強化が図られるよう、夏山冬里方式による放牧主体で管理する。

### (表-1) 飼養管理面で留意する取り組み

- 夏山冬里放牧を主体とした飼養管理  
→放牧からの天然ビタミン・ミネラルの摂取  
→自由運動による過肥の回避、足腰強化
- 畜舎環境の整備  
→十分な運動と日光浴が出来るように畜舎パドック併設
- 母牛のライフサイクルを重視し、年間を通じ不変的な飼料給餌  
→1年を通じ朝夕の給餌時刻を一定

### 4. 後継牛の保留

→母牛産子の産肉能力、血統、種牛性(繁殖性、子育て)等に優れた雌系統を積極的に保留

### 2) 畜舎環境の整備

舎飼時は、十分な運動と日光浴が出来るよう畜舎にパドックを併設。また暑熱や寒冷、換気対策に配慮し外的要因によるストレスを排除

### 3) 年間を通し不変的な飼料給餌

天候や季節、従事者の都合で母牛のライフサイクルが日々変わる事のないよう、給餌時間を1年を通し一定し、朝・夕の2回給与。またルーメン内細菌叢の乱れが最小限となるよう、冬場に給与する粗飼料は夏場に収穫した牧乾草を主体に、なるべく構成内容(品種と役割)が変わることのないよう、配慮して調節する。

### 4) 後継牛の保留

生産性を重視し、後継牛は産子の産肉性や血統に加え、管理の容易さ、繁殖性、子育て能力(哺乳能力)等の種牛性に優れた系統を積極的に保留する。



# 野菜類防除基準



**野菜**  
寺田 到  
上島営農指導センター  
080-6897-7996

※適用作物名が『野菜類』となっており、家庭菜園にも比較的使いやすい薬剤です。春先から虫、病気の発生が多くなりますのでご注意ください。

I 病害虫防除		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	灰色かび病	立枯病		立枯		黒斑病、斑点細菌		軟腐病、べと病		さび病		灰色かび病	
病害	斑点細菌病	軟腐病、べと病		うどんこ病		さび病		軟腐病、べと病		さび病			
虫害	アブラムシ・ハダニ	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、オオタバ											
病害	灰色かび病	ボトキラー水和剤 1000倍 使用回数制限なし 発病前											
病害	斑点細菌病	コサイドボルドー 1000倍 使用制限なし											
病害	黒斑病	Zボルドー 500倍 使用制限なし											
病害	軟腐病												
病害	うどんこ病	カリグリーン 800~1000倍 回数制限なし 収穫前日まで (トマト・ミニトマトは除く)											
病害	さび病	硫黄粉剤50 3kg/10a ジーフライン水和剤 1000倍 使用制限なし 収穫前日まで (なすは除く)											
虫害	アブラムシ	サンクリスタル乳剤 300倍 収穫前日まで (なす・トマト・ミニトマトは除く)											
虫害	ハダニ	硫黄粉剤50 3kg/10a アカリタッチ乳剤 1000~3000倍 使用制限なし 収穫前日まで											
虫害	アオムシ	デルフィン顆粒水和剤 1000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期											
虫害	コナガ	ゼンターリ顆粒水和剤 1000~2000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 (はくさいは除く)											
虫害	ヨトウムシ	トアローフロアブルCT 1000~2000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 (※オオタバコガ500~1,000倍)											
虫害	オオタバコガ	※上記の剤は同一種類剤(BT剤)のため、散布回数は、総計で4回まで											

- 病害防除**
- 降雨の後に防除
  - チツソが効いて軟弱な場合には注意
  - 温度が下がってきたら、べと病の防除
  - 乾燥してきたらうどんこ病の防除
  - 雨が多い場合は細菌病、カビ病ともに予防剤散布
  - 風が良く当たるところでは細菌病が多い(防風ネット利用)
- 虫害防除**
- 強い風が吹いたら、虫が増える
  - 乾燥したらダニが増える
  - 雨が多いと、全般的に虫は少ない
  - 虫が見えたら防除。7日~14日後に卵や蛹が成虫になるのでまた防除。

温度条件

降雨・湿度条件

生育状況

生育環境の観察+防除

やや高温・乾燥・風で多発、降雨で減

※ 防除薬剤は「薬剤の種類」、「希釈倍数」、「散布液量」、「散布回数」に注意し、基準を厳守する。